

鍼灸に馴染みのない人たちからは、鍼灸と言えば、肩凝り・腰痛ぐらいにしか効かないと思われている。そして肩凝り・腰痛は単純に肩や腰の問題だと理解されているが、東洋医学的に観た肩凝り・腰痛は、単に肩や腰の問題ではない。

「陰主陽従」という言葉がある。目立っているもの(陽)の陰(かげ)にその現象の主体(陰)があるという意味である。東洋医学はからだを全体的に観ると言われる。全体的に観る見方として「陰主陽従」の観点がある。陰陽論である。

「肩が凝る」・「腰が痛い」という目立った症状(陽)はそれが単独に存在するのではなく、その主体である状態(陰)と共にある。その陰陽を分ち難い一つの病態と観て、治療するわけである。

腰痛を例に具体的に見てみよう。

グックリ腰は重いものを持ち上げたりした時になり、その腰への負担が原因だと思われているが、グックリ腰はくしゃみや軽い動作によってでもなる。重い物を持ち上げた時に、腰の筋肉に能力を越えた負担がかかり、筋肉が引き攣るのは分かり易いが、大した負担がかからなかった場合にも起こる。それはきっかけとなった動作以前に、腰の筋肉が異常になっていて、能力を落していたからである。そしてそうした異常は多くの場合、お腹の異常が原因である。お腹に気の停滞があつて、お腹にある組織が機能低下や機能異常の状態になっている。それは下痢・便秘、子宮筋腫、前立腺肥大、膀胱炎など病名を付けられる場合だけではない。

お腹の淀んだ気(邪気)は基本的に陽面である腰に向かって行く。その邪気を受けた腰の組織はやはり異常になるわけである。お腹から腰に来る邪気が持つ毒性の強さによって、あるいはそれが一時的なものか継続的なものかによって腰の状態は変わってくる。

何かの動作によってグックリ腰になるという事態(陽)以前に、既にお腹からの邪気によって腰の筋肉は凝っていて、グックリ腰の準備はできていたわけである。例えば冷飲

食によってお腹を慢性的に冷やし、水毒を持っていれば、水毒から発せられる邪気によって腰の筋肉は慢性的に凝っている。水毒を抱えているお腹の状態がこの場合の陰である。お腹の水毒から発せられる邪気の毒性が強ければ、寝ているだけでも腰痛は発生する。腰の筋肉を緩めても、お腹から来る邪気の毒性が強ければ、再び腰の筋肉は凝って

来る。

邪気は筋肉ばかりを異常にさせるのではない、椎間板(背骨のクッション)を弱くさせ、神経を刺激する。また骨を支える筋肉の凝りは骨格の歪める。様々な種類の腰痛が生れて来るわけである。

「陰主陽従」は、日常的問題や社会的問題に対しても通じる観点である。問題は表立った事件・症状(陽)として目に映るが、その陰を同時に観てこそ、問題の本質が観える。イラク戦争の陰は何か。いじめ問題の陰は何か。環境問題の陰は何か。往々にして問題の陽に対する対策が語られるばかりである。

(2007年6月芒種)

